

研究課題名

ワンヘルスアプローチによるリステリアの全ゲノム解析

研究の目的と方法：

Listeria monocytogenes（以下、*L. monocytogenes*）による集団食中毒が海外では発生しており、乳製品、食べる前に加熱を必要としない Ready to eat 食品等が原因となっています。米国や欧州ではリステリア症のサーベイランス、疫学調査、全ゲノム配列の比較を行う体制の構築が進められています。しかし、日本のリステリア症の正確な患者数は推測にとどまり、散発事例の発生があるとされているものの、原因解明に至る事例は少ないのが現状です。よって、日本におけるリステリア症の現状と感染経路を明らかにする必要があると考えました。

本研究では北海道立衛生研究所（以下、当所）に保管されている患者、食品、家畜、環境、野生動物由来株の合計 361 株について 2001 年に北海道で発生した食中毒疑い事例で分離された株を中心に全ゲノム解析を実施します。また、ヒト由来株を中心に、研究期間内にも菌株の収集、解析を進めていく予定です。その結果を基に遺伝的関連性を明らかにし、リステリア症の実態を明らかにし、得られたデータベースは今後起こりうるリステリア症に対応する際の原因特定につなげる基礎データとすることで公衆衛生の向上に貢献することを目的とします。

研究の対象者及び対象期間：

北海道で発生した食中毒疑い事例で分離され当所で保管されている *L. monocytogenes*、保健所・医療機関等で行われた検査で対象とする病原体が分離され当所に搬入された *L. monocytogenes*、当所で新たに分離した *L. monocytogenes* を研究対象とします。したがって、これらの菌株が分離された患者等（患者、喫食者、調理従事者等）の方々が対象者となります。対象期間は研究終了時（2026 年 3 月）までです。

研究に利用する試料・情報：

行政検査用及び調査研究用の試料並びに菌株は北海道内の保健所、医療機関等から提供を受けます。行政検査用及び調査研究用の試料並びに菌株の実地疫学情報（食中毒疑い事例の保健所調査結果等）や医療機関等から提供を受ける情報を学会、論文発表等で研究利用する場合には、個人を特定できない形で利用します。したがって、対象となる患者及び無症状保菌者の方々の不利益にはなりません。

研究機関：

北海道立衛生研究所

試料・情報の管理について責任を有する者：

北海道立衛生研究所 感染症部 細菌感染症グループ 川端 結

利益相反について：

本研究に関連し、開示すべき利益相反状態にある企業等はありません。

お問い合わせ先：

北海道立衛生研究所

感染症部 細菌感染症グループ 研究職員 川端 結

〒060-0819

札幌市北区北 19 条西 12 丁目

Tell：011-747-2761

Fax：011-737-9476